

## 平成 26 年度 第 2 回郷土文化館協議会 概要

1. 日時 平成 27 年 3 月 26 日 (木) 午後 3 時～5 時
2. 会場 小田原市郷土文化館 1 階 会議室
3. 出席者
  - (ア) 郷土文化館協議会委員  
一寸木委員長、奥野副委員長、渋谷委員、鳥居委員、中村委員、広谷委員
  - (イ) 事務局  
栢沼教育長、諸星文化部長、安藤文化部副部長、友部生涯学習課長  
岡郷土文化館係長、茂木主任、大貫主事、中村主事

### 4. 会議の概要

教育長の挨拶に続き、協議に入った。  
議事の進行は一寸木委員長が行った。

#### (1) 議題 1「平成 26 年度 郷土文化館事業報告」

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、協議を行った。

#### ① 平成 26 年度郷土文化館入館者数について

委員より、入館者数の減について原因などはどのように考えているか質問があった。

これについて、事務局より、天守閣の入館者数は伸びている。明確な理由は不明だが、団体の観光客などは小田原での滞留時間が短い傾向があり、それが影響しているものと考えられる旨を説明した。

この説明に関連して、委員より、ここにくればこれがあるという売りがあれば入館者数も伸びるのではないかと指摘があった。

また、委員より、次回の郷土文化館協議会で展示批評をやってはどうか。または、モニター会員を募り、展示について意見を聞くというやり方もあると意見が出された。

#### ② 学校利用について

委員より、子どもの入館者数が少ないのではないか。教科書とリンクする展示など、学校側のニーズを把握してやっているのか。待ちの姿勢はよくないとの指摘があった。

これに関して、委員より、学校側は余剰の時間がない。貸出しユニットなどを使い、出張していくなどした方がよいとの意見が出た。

これに関して、委員より、学校での授業で博物館に来るのはむずかしい。社会見学で呼んでどうか、土日に家庭から子供を連れてくるように誘導するやり方を考えてはどうかとの意見が出された。

また、委員より、校長会でも PR が必要。モノを学校に貸す時には使い方を見せながら説明した方がよい。門戸を開いておくことが大切であるとの指摘があった。

そのほか、委員より、生命の星地球博物館での外来生物の特別展は子供向けを意識してつくり、チラシも若い人に作ってもらった。また、会期中、小さいイベントを何かしら会場で行っているということも重要であるとの意見が出された。

これに関し、委員より、子供向けのチラシは子どもが家まで持って帰ると効果が出るとの指摘があった。

### ③ 展示について

委員より、常設展に手を入れて初心者がわかる展示にすることが必要であるとの意見が出された。

これに関して、委員より、外国語のサービスも必要になるのではないかと指摘があった。

また、委員より、観光ボランティアを活用していくべきとの意見が出された。

そのほか、年度計画を立てる時に、どういった対象をターゲットにするかということ意識するとよいとの指摘があった。

また、これに関連して、委員より、まちかど博物館から人を呼ぶということも考えられるのではないかと意見が出された。

## (2) 議題 2「平成 27 年度 郷土文化館事業」について

このことについて、まず事務局から会議資料に従って概要を説明した。説明後、協議がなされた。

### ① 戦後 70 年特集展示について

委員から、戦後 70 年とは戦後からこれまでを総括するような内容になるのかとの質問があった。

これについて、事務局から、戦時下の小田原を紹介するものであり、終戦からこれまでということではない旨を説明した。

また、委員から、広報を早めにすれば資料が集まる。展示をきっかけにモノや情報を集める取り組みをした方がよいとの意見があった。

これに関して、委員から、市民の記憶を集めてはどうか。広域的に取り組んではどうかとの意見が出された。

これについて、事務局から、戦傷者の療養所であった箱根病院（箱根療養所）とも連携し、事業を進めていきたい旨を説明した。

## (3) 議題 3「資料の受贈」について

事務局から、資料の受贈について明文化した基準を作ることについて、委員の意見を伺った。

このことについて、委員より、どのような扱いのものか。内規になるのか質問があった。

これについて、事務局より、今まで明文化されていなかったが、一応の基準はあった。それを文章化したものであると説明した。

このことについて、委員より、受贈ではなく受入とした方がよいとの指摘があった。

また、委員より、寄贈の基準についてはあまりはっきりさせると、例外的な事例に対応できなくなることがある。原則として、という文言を入れるか、または、小田原の文化を語る上で重要というくらいにしてはどうかとの意見があった。

そのほか、委員より、郷土文化館協議会に受入れの可否を諮るとあるが、協議会は年に2回の開催であり、実際に申し出があった際にそこまで返事を保留にするのは現実的ではないとの指摘があった。

これに関して、委員より、郷土文化館協議会に諮る基準があいまいであるが、どのような基準で考えたのかという指摘があった。

これについて、事務局より、市に金銭や物品の寄附があった場合の受け入れを参考としている。また、技術的に保存や取り扱いに慎重を要するものなどは助言をいただきたいと考えている。点数については、収蔵スペースのこともある旨を説明した。

委員から、郷土文化館協議会に諮らなくても決定できる内容となっており、特に諮る必要はないのではないかと意見があった。

委員から、寄附にあたっての条件などは、寄附書を作り、その書式の中に記載するなどして対応すればよいのではないかと意見が出された。

これらのご意見を踏まえ、基準については再度事務局で検討することになった。

#### (4) 議題4「博物館構想」について

このことについて、事務局から、3月18日開催の博物館構想策定委員会で、正式に構想の策定について教育委員会から諮問したことを報告した。

#### (5) その他

##### ①開催時期について

このことについて、委員から、郷土文化館協議会に学校長も委員として参加していただいているが、3月末では学校が忙しく、出席できない。会議の開催時期は再考してほしいとの指摘があった。

以上をもって、協議を終了し、散会した。